

広島県博物館協議会令和4年度第1回会議 議事録概要

1 日 時

令和4年10月21日（金）午前10時～正午

2 場 所

広島県立歴史博物館（福山市西町二丁目4－1）

3 協議会のテーマ

『家族で楽しめる博物館づくり』

【目指す姿】子育て世代にとってもっと気軽に、子どもたちがわくわくする博物館

4 出席委員（12名）

安間会長、前田副会長、相原委員、阿部委員、井口委員、浦田委員、木ノ元委員、柴川委員、城市委員、宮里委員、百々委員、森岡委員

5 欠席委員（3名）

畑石委員、森川委員、吉岡委員

6 担当部署

広島県教育委員会事務局管理部文化財課（082-513-5021）

7 議事概要

(1) 開会

本会議は、広島県博物館協議会条例第5条第2項に規定する定足数を満たしており、成立することを確認した。

(2) 挨拶（文化財課課長）

(3) 委員紹介

(4) 現地視察

(5) 議題

- ・歴史博物館の当面の課題について

歴史博物館の取組状況や当面の課題について、事務局から説明を行った。

- ・その他

(6) 閉会

8 主な意見

・博物館活性化の観点から、草戸千軒町の実物大復元はユニークベニューとして価値が高いため、福山城のナイトミュージアムなどの取組を参考に、現在草戸千軒の展示室で行っているお化け屋敷を発展させた形で、歴史博物館でも定期的に行ってみてはどうか。

・福山城博物館がリニューアルされ、来館者も増えているところなので、この福山城との連携や、三次の歴史民俗資料館、奥田元宋・小由女美術館と三次商工会議所の取組のように、地域の飲食店との連携にも取り組んでみてはどうか。

・一時的な来館と日常的な来館、またターゲットをどこに置くかでアプローチの仕方は全く異なると思うが、日常的に色々な方が歴史博物館に集って、日常的に何か学びがそばにあるような場所がつくられていくと素敵だと思う。

・以前と比べて、展示が説明的になっているので、説明をもう少し省くことによって、体験的で感覚的に楽しめるような、ワクワク感をもっと引き出すような展示も良いのではないか。省いた説明は「ポケット学芸員」の子ども版を作って補うなどのいろいろな広がりがあるのではないかと思う。

・チラシやポスターのデザインが堅いので、感性で、面白そう、行ってみたいというような感覚のプレゼンができていくと、更に興味を持ってもらえるのではないか。

・博物館のファンを増やすことを意識したときに、子どもたちに対して、視野を広げて教育を行っていく立場である、学校の先生やこれから教員になっていく人たちがどれだけ歴史博物館に関心を持ち、相談できる頼られる存在になっていくかが大切だと思う。

・これからデジタルな社会になっていくが、そこを生きる子どもたちには、画面の向こうにあるから知った気になるのではなく、量感とか、色合いといった実物を体験してほしい。そのため、博物館の中で体験してもらえる部分は残していかなければならないと思う。

・草戸千軒の展示そのものがなかなかないキラーコンテンツで、子どもからお年寄りまで好きだと思う。中では掲示を少なくし、視覚的にも町を再現されているが、例えば市場の中にいて、市場で働く人になってみるとか、動きのようなものがたまにでも再現できると子どもが心をつかまれるのではないか。

・建物の外のストリートの空間がすばらしいので、カフェやマルシェなど、何かちょっと人の集客ができるようなイベントのようなものがあればまた行き来もあるのではないか。

- ・草戸千軒にたどり着くまでに時間がかかるので、メインを草戸とした時の来られる方の行動までデザインできているような見せ方、伝え方があれば丁寧だと思う。

- ・子どもがおしゃべりをしても大丈夫な子供デーのようなものが月に一日でもあれば、親としてはその日に博物館に連れて行こうと思えるようになるのではないか。